

令和5年度 第1回 加賀市総合教育会議

招 集 日 時 令和6年3月21日（木曜日）午後1時開会／午後2時閉会

招 集 場 所 加賀市役所別館3階 302 会議室

出 席 者 宮元陸市長

島谷千春教育長、篠原隆一委員、山下裕嗣委員、佐野明子委員、新滝有紀子委員

会議列席者 教育委員会事務局 堀川事務局長、平塚次長兼学校指導課長、小茂出教育庶務課長、
上出生涯学習課長、左古教育総合支援センター所長、北村スポーツ推進課長、山下教育庶務課リーダー
市民健康部 奥村市民健康部長、山村子育て支援課長、北口子育て応援ステーション所長

令和5年度第1回加賀市総合教育会議開会宣言

○小茂出課長 はじめに宮元市長からご挨拶を申し上げます。

○宮元市長 本日は令和5年度加賀市総合教育会議でございますが、大変お忙しい中、教育委員の皆様方には、足を運んでご参加いただき、まずお礼を申し上げたいと思っております。かつての教育委員会制度から変わりまして、首長を教育委員会で様々なかたちで管理をしていくべきだという法律が改正されたということで総合教育会議が行われているわけではありますが、このあいだ、新滝委員も来られたと思いますが、山代中学校の卒業式に行きました。私もかつての山代中学校をよく知っていたので、こんなに素晴らしい卒業式が行われたことが感動して、胸がいっぱいになりました。小学校のときの教育長の教育改革がいかに効果を上げているのかということの証ですが、山代小学校の方にも行きましたが、みんなで進んで勉強をしていました。あれもすごかったです。小中一体的に改革が急速に進んでいて、おそらく子ども達ももちろん学校に行くことが楽しくなっているということだと思いますし、親御さんも子ども達が変わっていく姿をすごく喜んでおられるんじゃないかなと思います。山代は教育の先導的な役割を今担って、加賀市全体の教育の底上げにつながっているんじゃないかと思います。島谷教育長に粉骨砕身頑張っていて、教育改革を強力に進めてもらっている成果がこんなに短期間に出るんだなと、私もびっくり仰天です。そういうことも踏まえて、ぜひ今日は貴重なご意見を聞かせていただいて、不登校支援というのは今日本で最も大きな課題です。国家的な問題になっています。ぜひそこも加賀市が先導的な役割を担えるといいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○小茂出課長 進行は事務局が行っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員 お願いします。

○小茂出課長 それでは進行は事務局が行っていきますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事は2件です。はじめに今後の不登校支援の方向性についてです。これは教育長から説明をお願いいたします。

- 今後の不登校支援の方向性について
島谷教育長 資料に基づき説明

○小茂出課長　ただいまの今後の不登校支援の方向性について、市長、教育委員の皆様方からご意見などありますでしょうか。

○篠原委員　今後の課題のところ、学校の中とか学校の外とかいろんな多様な居場所を作ることが必要だと、おっしゃる通りだと思います。今日は民生関係の方もたくさん出席していただいていますので、これは学校教育現場だけでは子ども達の居場所がなかなか難しいということもあるので、ぜひ民生関係の方にご協力をいただけないかと。具体的にいいますと、例えば今各地域のところには児童センターがあって、確か社協さんの管轄下に入っていると思います。そこに指導員の方とか所長さんがいらっしゃると思うんですけども、その方の負担になるのは非常に心苦しいんですが、なんらかのかたちで子ども達が気楽に、そもそも家に長いこといるというのが問題だと思うので、できればそういうところで、旧三木小ののぞみ教室に行くのは例えば湖北地区とか分校地区だと思うのも大変だと思うので、できるだけ近いところで、気楽にちょっと顔を出せるようなところにそういう受け皿みたいなものを設けられないかなというのがひとつ提案でございます。ただ先ほどもお話ししましたが、今現状のスタッフだけでは非常に厳しいです。その方たちに負担を負わせることになりますので、できれば民生部の方のほうで、今はなかったかもしれませんが、以前は教員 OB の先生が子ども達のいわゆる、当時は虐待だとか、そういうことのために配置されていて、それで市の職員の方と一緒にお家に訪問に行ったり、いろんなことをしていた事例が過去にあったんです。そういうようなことを踏まえて、できるだけ外に動けるスタッフを、今の児童センターのスタッフだけでは非常に気の毒なので、実際に保護者のご家庭まで行って、そこでなんらかのアプローチができるようなスタッフとか要員をぜひ確保してもらえないかなということが今の私のお願いです。もちろん今の教育総合支援センターの機能を充実させるのは重要なことですし、教育総合支援センターの中の職員も来るのを待っているんじゃなくて、外に実際に行って、そこで不登校のご家庭の支援をしていらっしゃると思うんですけど、それをもっともっと強化していったほしいし、そういうことも考えていながら、今のままだったらずっと固定してしまっているんじゃないかと気になっています。以上です。

○小茂出課長　奥村部長、お願いいたします。

○奥村部長　今ほどのお話は、いろんな地域の中で子どもの変化をキャッチし、そして継続した見守りをしっかりしていこうという趣旨でのご意見だと思います。児童センターは6カ所にございますが、地域の資源はほかにもたくさんありますので、そういった中で令和3年度に子育て応援ステーションの体制も強化いたしましたので、しっかりキャッチして、しっかり支援するという体制は以前よりは充実してきたと思っております。そういった中で子どもにとってどんな多様な選択肢を用意できるかということをもっと今後考えていきたいと思っております。

○篠原委員　ありがとうございます。教育畑だけでは限度がある状況なので、子育て応援ステーションとか、その辺りでスタッフをどんどん外へ、ただでさえいろんなご相談がたくさんあって、それは重々承知わかっているのですが、大変心苦しく申し訳ないんですけど、そういうところもぜひ活用して積極的に保護者のご家庭にアプローチできるような体制を作ってもらえないかなというのが私のお願いです。以上です。

○小茂出課長　他にご意見等ありますでしょうか。

○山下委員 資料の5、6ページの統計になりますけれども、各小学校、中学校、各学年の児童生徒の数値はあがっているんですが、個人の生徒に対して小学校1年生から中学校までずっと追いかけた通したデータはとっていらっしやらないですか。

○小茂出課長 平塚次長、お願いいたします。

○平塚次長 各学年の子ども達の状況を追いかけたデータは今現時点ではありませんけれども、そういったところについても今後より詳細に子ども達ひとりひとりの状況を追跡調査等しながらとらえていくというのは非常に大事なことだと思っていますので、支援センターの機能強化のひとつの方策としてそういったところも今後検討してまいりたいと思います。

○山下委員 学年が上がるにつれて増加していく傾向がありますので、もちろんデータですの
で憶測でしかないですけれども、上がるにつれて増えてくるということは、改善されずに残ってそのまま学年が上がっていくという。中学校で改善された方が少ないですよ。引きずってしまっていると思うんですね。だから個別に対応できるのが、学校に行けないのであれば、それこそさっきの地域の児童センターとか、受け入れていただいて聞いていただける方、個人情報のことはあるんですが、そういうところを増やしていただいて、その事例を多く集めて、もちろん改善した例が一番いいんです。このようにして改善したという例も非常に必要なんですけれども、もちろん悪化した例も必要だと思うので、そういったデータをどんどん蓄積していったら、次に同じような場面があったときに活かせるようななにかしら策がないと、もちろん人的なものも必要で、個に関することでももちろん保護者も入ったりして非常にプロセスが大変だと思うんですけれども、これは大事なかなと思っていますし、加賀市の場合は決して人数は少なくはないんですけれども、多い人数でもないのになんとかできないかなと思っています。

○小茂出課長 他にご意見等ありますでしょうか。

○佐野委員 久しぶりに友達に会ったときに、その会話の中で自分の子どもが今不登校気味なんだよねという話を聞いたんです。私は教育総合支援センターを知っていたので、こういうところがあるよと教えたんですけど、「へえ、そういうところがあるんだ」とやっぱり情報がないんですよ。学校に相談してもピンとこない、不登校はそれぞれ理由が違うから自分と子どもに合う納得ができる方法を探している様子でした。そのあともう一度「どう、連絡した？」と連絡してみたんですけど、やっぱり学校に言わず直接連絡するのはなんとなく後ろめたさがあると。そんなことないよ、連絡すればいいよという話だったんですけど、積極的に行動できる人なら連絡もできるんですけど、子どもが悩みを持っていたり、親も心配になっている人がそんなに積極的に行動できる人は多くないですよ。自分も心配でわからなかったときは身近にある携帯で調べてしまうんですけど、そういうので「加賀市 不登校 心配」とかでいろいろ検索して、それで加賀市にはいろんな方法があるよと、いろんな窓口があるんだよと、そういう情報をもっとわかりやすく発信してほしいと思いました。あと「教育総合支援センター」とだけ調べても堅い説明だけなんです。だからどうすればいいのというその後のことも、ちゃんとその家族みんなにわかるような情報発信をしてほしいなと思いました。

○小茂出課長 平塚次長、お願いいたします。

○平塚次長 本当におっしゃる通りでして、不登校施策のところ、市内でどのような不登校の支援の相談先があるのかということについては、もっともっと保護者や地域の皆さんに周知をしていかなければいけないと実感しております。今、教育委員会では不登校施策全般に対

してどのように加賀市として取り組んでいるのかというパンフレット作りをしております。連携しているカタリバさんとも協議しながら、どういったかたちのパンフレットがわかりやすいのか、支援センターについても、ホームページ等についても、支援センターはこういうところだよ、こういう活動をしているよというところもいつでも見られるようなかたちで、その情報の公開を進めていかないといけないとも思っております。それから学校に対しても、加賀市の不登校支援の相談場所として、先ほども福祉部局の方、子育て応援ステーションさんとも連携して進めているところもあるんですけれども、そういったところもある、それからセンターもある、それから学校内にはこういう校内サポートルームというのも来年度から設置する予定なので、オンラインサポートルームというのも本校にはありますよということとか、様々な選択肢を提示して保護者の方と、まずは担任が窓口になると思いますが、担任と保護者の方とその子に応じた支援先というのを選んでいただけるような、そういうかたちの不登校支援策をさらに進めていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

○篠原委員 関連してお願いいたします。今の平塚次長のお話ですと、紙ベースのものを作られるという話になります。今の若い保護者の方は紙ベースではあまり読まないですよね。私たちの時代とは完全に変わってしまっているし、今の新しい教育の BE THE PLAYER についてはインスタとかフェイスブックとかいろんなところで発信しているじゃないですか。ホームページもなかなかどこを探していいかわからないと、インスタとかフェイスブックとか X とか比較的軽いものの方でどちらかというと手軽に検索する人が多いんじゃないかなと思うので、今佐野委員さんのお話でも、加賀市、不登校と検索するとおっしゃっていたから、そういう感覚が日常的だと思うんです。加賀市は IT 環境が先進的に進んでいますので、そういうものも対応しながら、そういうものを利用して、単なる紙ベースで分けましたよというものじゃなくて、なかなか紙でもらっても、子どもたちがどこかにやってくちゃくちゃになっちゃったりしますので、何か直接保護者とつながる、そういうような媒体を使って発信するともっともっと情報がダイレクトに届くんじゃないかなと思いますけど、いかがですか。

○平塚次長 今年度、2 学期からコドモンという双方向の連絡ツールができましたので、最近コドモンを通じて、紙媒体も配布しながら、そういうデータでも保護者の方にお知らせをしております。保護者の方から、例えば単純に学校を欠席する場合についても、その欠席の理由等も、電話ではなくてコドモンで学校の方に知らせるということもできますし、そういったところで、先ほどの今紙ベースで作っている不登校施策のパンフレットについても、コドモンで配布して、何か気がかりなところがあれば、不登校についてのご相談についてはいつでもコドモンを通じて気軽に担任までご相談ください、学校までご相談くださいというようなかたちの連絡を積極的に行っていきたいと思っております。ありがとうございます。

○宮元市長 市のホームページは 1 回改正したんですけどやっぱり駄目なんです。分かってくいですね。もっと直さないといけないし、やはりもう今はよく言われる AI チャットボットのような、そういうものを打ち込んだらすぐ出てくるようなものにしないと難しいなと。それは本当に申し訳ないなと思います。そしてさっきから不登校のお話をお聞きしていて、いわゆるデータベース、子どもの個人情報にももちろん関わるんだけれども、学校の成績だけでなく、子どもたちのいわゆる行動変移の履歴みたいなもののデータベースというのは、学校と教育委員会で共有されているんではたか。

- 平塚次長 はい、共有されています。
- 宮元市長 デジタル化されていますか。
- 堀川局長 デジタル化までは。
- 宮元市長 デジタル化は最低限しないと、今の時代はやはりまずいので。そうじゃないと先生が変わったらそこで全部切れてしまうとまずいので、そこはデータベースを構築しておかないと。当然サイバーセキュリティ上のいろんな管理が必要だと思うんですけど、そこは子どもの大事な大事な情報なので、やはりした方がいいんじゃないかなと思います。先ほど篠原先生が言われたように、紙でとかそういう時代ではないと思います。
- 島谷教育長 おっしゃる通りそこが今結構課題になっていまして、今学校からエクセルであげてもらって集計してという、少し原始的なやり方をしているので、今現在どうなっているのかというのが教育委員会は見られないので、その辺個々で状況がクリアに見える、数字じゃなくてというのがやはりデータベースがある程度必要だなというのは本当に市長がおっしゃる通りです。
- 宮元市長 加賀市も先進的だと言いながら、はっきり言って申し訳ないですが、お金がすごくかかるものですから、でもやはりちょっと打ち込んだら AI を通して答えがバンとでるようではないと駄目です。本当にそう思います。
- 新滝委員 篠原委員がおっしゃったことはその通りで、最終的にすばらしいホームページがいつか出来上がると思うんですが、そこに行きつくまでの検索、SNS あるいはお母さんたちはもう紙は読まないです。情報共有というのはやっぱり先生方もそうだし、親もそうだし、すごく大切だと思うんですね。やっぱり孤立させない、子どもも取り残さないというのは大事なんですけど、親は誰しも学校に行ったら毎日元気にいてくれるものだと思って入学式を迎えると思うんですけど、じゃあ子どもが学校に行かなくなったときに相談するかといったら、相談できないお母さんは多くて、自分の子どもが学校に行けないということを言えないと。そうになると、親子ってすごく共有するので、親の不安定なそういう気持ちが子どもも共有して、いろんな例もありますけど、健全に学校に行っているお母さんと情報共有はできないと思うので、やっぱりそういう同じ悩みを持った方同士の場というのがウェブ上でもいいですし、学校の先生も交えてでもいいし、学校の先生がいない方がいいのかもしれないんですけど、それこそ検索すればそこにたどり着けるみたいな。別に場を設けなくてもハッシュタグさえつければ意見交換できる時代なので、それを発信したりとかがいいんじゃないかなと思います。そしてせっかく素敵に教室をリフォームしたり、温かい雰囲気が出ているけれど、それを知っている親御さんというのはやはり数少ないので、子どもの顔とか、活動している姿というのは写せないかもしれないけれど、そういった写真を毎日1日1枚あげるだけでも全然違うんじゃないかなと思いました。それから小学生といっても、1年生と6年生は全然違いますし、むしろ中学生寄りの対応が必要かもしれないので、小学生でくくる、中学生でくくるというのも。先ほど市長もおっしゃったように、先生が変わったら今まで積み上げてきたものが年度替わりで終わってしまうとなるともったいないというか、継続した引継ぎじゃないですけど、それを人間関係の中まで踏み込めるようなものが大事かなと。やはり公立なので、それは避けては通れないので。
- 左古所長 センターの所長の左古です。よろしく願いいたします。今いくつものお話がありましたので、全て網羅できるかちょっと分かりませんが、センターの方も以前のぞみ

相談会という会を、これは当方の子どもたちを持った保護者のそういう相談会が年に何回か企画されていたんですけど、今の時点ではちょっとなくなってしまったんですが、それが消滅してたのはどういうことかという、本当に必要だと思う方でも足がなかなかそこに向かないという、先ほどお話ありましたけれども、自己開放がなかなかこれは難しいところでありまして、ですから対面で相談会をするというのももちろん大事ですし、オンライン上でできるということもとても大事なことだと思いますし、今のようにあるところにアクセスすると返事が返ってくるようなブリッジのそういう相談というのも、これからもどんどん利用されていくようになればいいかなと思っています。センターの方でものぞみ相談会は一時的に減りましたが、保護者の要請があればいくらかでも立ち上げることは今後もできるかなということは思っています。ひとつ感じたことは、お二人の保護者の方がたまたまセンターの方で対面したときに、お互いの思いを出し合う時間が少しあったんですけど、とても安心できた、うちだけじゃないんだと、やっぱりそうだねというふうに、お母さん方お二人は短い時間だったけども満足して帰られたという事実は昨年度、実際にありました。ですからやはり情報共有とか、学校との共有はもちろんですけど、保護者同士の共有とか、とても大事なところだということは感じておりますので、また今後それについては対策を考えていきたいなというふうに思っております。以上です。

○小茂出課長 他、よろしいでしょうか。

○山下委員 ちょっと別なんですけど、地震の関係で避難されている方が避難先でオンライン診療というご相談できると。そういうかたちと同じように支援センターでオンラインで、もうすでに開始されていると思うんですが、そういった事例があったり、もう少しやりやすいようにとか、そういった考えはありますでしょうか。

○小茂出課長 左古所長、お願いいたします。

○左古所長 オンラインについても、学校とつなごうかという話もあったんです。ところが、オンラインの場合はなるべく自校の別室の方が、学校から離れないかなという、距離的にですけども、教室に行こうと思うときには移動できるし、オンラインで授業を受けようかなというときには相談室とか別室で受けられるということで、一時ある中学校から要請がありましたので、もしもそれで可能ならば実現しようという相談にはなっておりました。現在のところはないんですけど。

○山下委員 例えばそれを保護者まで広めていただいて、保護者が家庭でご相談いただけたら、そういうものももしできればもう一步進むんじゃないかなと思いますし、この情報が、家にいた方が話しやすいということもあると思うので、その辺もご検討いただければなと思います。

○宮元市長 そういう拡張機能のお金がかかるということで遠慮するようなことだけはやめてください。そんなことで遠慮して、控え目なことだけはやめてください。

○小茂出課長 他によろしいでしょうか。それでは意見が出揃ったようですので、今後も市長部局、教育委員会が意見を交わしながら協力し、不登校支援をより充実したものにしていきたいと思います。

それでは続きまして議事の二つ目、教育大綱について市長と相談した案について事務局から説明をいたします。

● 加賀市教育大綱について
小茂出課長 資料に基づき説明

○小茂出課長 では教育大綱について、市長、教育長、教育委員の皆様方からご意見などはいかがですか。特にありませんでしょうか。それでは、加賀市学校教育ビジョンを加賀市教育大綱に位置づけし進めてまいります。ありがとうございました。

 それでは、本日の会議の議事は以上であります。せっかくの機会ですので、皆様のほうで意見交換があればお願いいたします。

○篠原委員 先日は全国から新しい加賀市の教育についてたくさんの方が見に来られて、先ほど市長もおっしゃいましたが、教育長が粉骨砕身一生懸命先頭になって頑張っておられて、市長からもすばらしいよとお褒めの言葉をいただいて、大変私も嬉しく思っているんですけど、そのときちょっと駄目だったことがひとつだけあるんですよ。それは何かというと、私は山代小学校を見に行ったんです。山代小学校は私が 20 代のとき約 1,500 人あまりの子ども達がいる、昔の小さい学校がどんどん増築していつているんですけども、築 50 年を過ぎているんですよ。

○宮元市長 古いという話ですね。

○篠原委員 はい、前から市長は箱物を作らないということで私も賛成なんですけど、あまりにも子ども達が気の毒で、ちょっとこれはなと考えていたのがひとつです。それで先ほどの教育大綱の中にあります学校規模適正化がこの前から課題が出ていますけれども、そういうものも併せてぜひ山代小学校は、私も久しぶりに行きましたら前と一緒にもうすごい状態なので、全国からもその声がちらっと聞こえたということも私もうかがっています。箱物を作らないのは非常に大事なので、それよりも今市長がおっしゃっているデジタルとか、そういうものにお金を使っていただいて非常にありがたいことなんですけれども。私自身は今まで教頭校長の時代に東谷口小学校と保育園、それから金明小学校、湖北小学校の三つの学校建設に関わってきたんですが、なるべく新しい教育感に基づいた学校づくりということを頭に入れながら、校舎設計をつくってきたつもりなんですけれども、やはり山代小学校を見ていると、学校適正規模にいただいた上で、局長が盛んにおっしゃっている個に応じた教育に当てはまるような、あるいは協働的な学びができるような、そういうような施設ができないのかなとちょっと考えていたわけであります。以上です。

○宮元市長 私は基本的には教育は別なので。全部一律箱物はだめと言った覚えはないんですが、教育というのは目に見えない価値を重視しているということを優先してきたわけで、私個人的な気持ちとしては小学校はこれ以上潰したくないんですね。統合も本当はしたくないです。極力やめたい。今の山代小学校のトイレの話はいろいろ聞いて、あまりにもひどければそれはもう変えていかないといけないので、子どもたちが今どんなふうに思っているか、学校の先生がどんなふうに思っているかということも含めて、やるなら新しくやって建て替えるにしても、他から呼び寄せられるぐらいのものにしないと意味がないので。内容的にもすばらしいものにしないといけないわけですから、やるならばそういうことにしないといけないし、それはやはり教育の一環で、箱物は全部駄目とそんなことは思っていません。教育の一環としてどうし

ても必要であれば、より先進的な、日本でも代表的なものにすればいいと僕は思います。だからもっと加賀市の稼ぐ力をつけないといけないですね。これから観光は爆発的に良くなると思うので、それを少しでも教育に振り分けていけるような力が市の方についていけばいいなと思います。またちょっと考えさせてください。

○篠原委員 よろしく願いいたします。

○山下委員 この4月に山中小学校の入学者が15名で、河南小学校が13名で合わせて28名、6年後には山中中学校がいよいよ1クラス時代になってくるのもありますので、そんなことも含めて、もう一つは前から思っているのは、この前ちょっとバスの運行表を見ていたら、一本だけ山中温泉から加賀温泉に来るのに別所も通るバスがあるんですよ。結局、別所が山代小学校校区になっているので、路線バスに乗っていつているお子さんがいるので、その1本が入っているというのがあって、河南小学校にいくと別所の一部の方も河南にいらっしゃっていると、統廃合はまた別としても1回学区の再編というか。前は黒瀬の方々が路線バスで山代小に通っているというのもあったので、そういうのも大胆に1回見直す時期に来ているのかなという気はしているものですから、その辺の検討をはじめ、時期なのかなということをこれは意見ですけども、そんなことを考えたらいいかと思います。

もうひとつ山中なんですけど、先ほど児童館の話もありましたけど、山中児童館も今は使えなくなって避難しています。文化会館も使えなくなっていろんなところに分散していますので、いずれにせよ山中の温泉地区で30人集まって会議ができる場所がないというのもあって、その辺もたぶん市として検討いただけたらと思うんですが、であれば、先ほどの児童館も含めて総合的に、いろいろと職員をあちこち分散するんじゃなくて、そういったものが何かできないかなというのを、これも検討いただければというお願いであります。

○宮元市長 山中のいわゆる公共施設というのは、他の地区に比べると突出しているんです。その整理統廃合の議論をやってきたんだけど、いやそれよりもこっちを優先してほしいという市民の合意があって、そういうものを優先してきた結果、公共施設統廃合よりも観光管理施設の新設を優先してきた経緯は実はあるんです。それによって他の地区とのバランスが極端に、他の地区でなかなかそういう投資ができない状況もあるので、そこはもうちょっと時間がかかるし、やはり他の地域のバランスとか、どうしても我々としては不平等は避けたいので、そういう意味でちょっと難しいところがありますね。

○山下委員 今まで会館の方に集まっていたのが使えないというので、山中座の裏の和室しか今ないんですね。その辺で、30人以上40人50人集まる場が、すぐできるものじゃないものですから、議論をするのであればその児童センターも含めた総合的なもので、図書館が山中に残っていますから、その辺も含めていろいろ検討いただく中で、先ほどの不登校の話もあって地域の拠点として児童館であれば、ちょっとまずいかなという部分もありますので、総合的に判断できればなと思います。

○宮元市長 最終的に余裕があれば公共施設は本来優先すべきなんです。それは私はそう思っているんですが、そういう経緯が山中の場合なかったものですから、ちょっと時間がかかるなということで、また相談します。

○小茂出課長 他、よろしいでしょうか。

○佐野委員 この中に加賀温泉駅とか動橋駅で子どもとか送迎されている方っていますかね、

毎日。動橋も3方向から来るんですよね。駅の前のロータリーに朝集中するんです。そうするとやっぱりすごい混むし、ちょっと危ないし、駐車場もないし。3方向からが危ないと毎回思うし、大体慣れてきている人はこういう感じで子どもを下ろしたらこうやって出るんだなどだいたいわかるんですけど、やっぱり1年生になったばかりの親御さんとか、結構違うところから入ってきたりとか、本当に危ないので。そうかと思うと加賀温泉駅はきれいになったんですけど、観光バスの駐車場はあっても送迎とか、結構大変なんですよ。小中学生はあまり使わないですけど、その後のことも考えて、その辺もご検討いただければと思います。

○新滝委員 山代からでも動橋駅使います。大混雑ですね。

○宮元市長 この間、駐輪場の話は出ていたんです。少し広くしたらどうかとかいろいろあったんですけど、整備する人がいないといけないかもしれないですね。

○新滝委員 矢印だけでも。

○佐野委員 そうなんです、こっち方向で入ってくださいという。どちらが優先かみんなわからなくて、多いときは2列になっている状態で。

○宮元市長 時間帯は何時ごろですか。

○佐野委員 朝の7時前から。

○新滝委員 朝と部活が終わって帰ってくるくらいが。でも朝です。

○宮元市長 それはちょっと考えないといけないですね。標識をつけるとか。案内看板を作らないといけないですね。

○佐野委員 まったく何もない状態なので。

○宮元市長 誘導のを作りましょう。それはします。

○小茂出課長 それでは最後に市長、何かございますか。

○宮元市長 ないです。

○小茂出課長 それでは本日の加賀市総合教育会議はこれで閉じたいと思います。
本日はありがとうございました。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。